

REPORT 開催講座・展覧会レポート

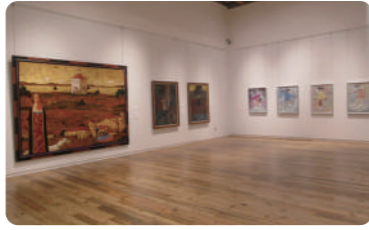
- 展覧会
- ワークショップ
- 講座

常設展「旅する絵画」

展示室から世界を巡る旅。

日時:6月8日(土)~6月18日(火)

市所蔵の作品を「旅」をテーマに展示しました。日本国内や海外の風景画などを通して遠い異国の地に想いを馳せることができました。また、ホワイエでは、樹齢250年の赤松などの盆栽も展示しました。



劇場版 荒野に希望の灯をともし

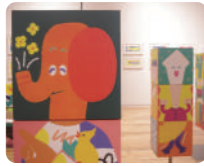
日時:6月22日(土) 講師:谷津 賢二

アフガニスタンで用水路の建設活動中に、武装勢力の襲撃によって死去した医師 中村哲さんのドキュメンタリー映画の上映会と、監督のアフタートークイベントを開催しました。谷津監督からは、制作当時の情勢と併せた中村さんのリアルな心情についての話があり、現代に生きるわたしたちが平和のために、何ができるかを考える機会となりました。

中村医師が遺したものは?

クルクル・ピカピカ・ワクワクの
世界に飛び込もう!

今年も
大盛況でした!



第41回 川口市小・中・高校硬筆展覧会

日時:7月3日(水)~7月7日(日)

市内小・中・高校の児童生徒の書写・書道教育の振興をはかるために毎年開催しています。各校の優秀作品と県展の入選・入賞作品を一堂に展示し、多くの鑑賞者でにぎわいました。

吉田有紀展 光の像 -おもちゃカラー-

日時:8月22日(木)~9月1日(日)

前号のインタビュー記事で紹介した吉田有紀さんの個展では、光をテーマにした六角形のインスタレーション作品がスタジオを埋め尽くしました。埼玉県立近代美術館 副館長 平野到さんとのトークイベントや、打楽器奏者の野尻小矢佳さんとの音楽イベントも開催しました。



展示室に現れた
光の像

AIUEO Exhibition 「KURU・PIKA・WAKU」

日時:7月20日(土)~8月18日(日)

デザイナーグループ「AIUEO(アイウエオ)」による公共の美術施設では初となる展覧会を開催しました。オノマトペをテーマにした作品やデザイナーの制作風景などを展示し、デザインやイラストレーションを楽しみながら学べる展覧会となりました。



個性がきらりと光る
作品たち。

Sui Sui ワークショップ! コラージュでつくるシーパラダイス

日時:7月26日(金)27日(土)28日(日)

講師:AKIYO・KAORIN・NONO(AIUEOデザイナー) コラージュで海の生き物を作るワークショップを開催しました。参加者は作りたい生き物に、くじ引きで引いたオノマトペ(くるくる・ぴかぴか...など)の要素を加えて、作品を完成させました。どれも個性的な作品で、海のセットの中に展示しました。



展覧会・イベントの最新情報のほか、会期中のようすや過去のイベントレポートなども随時更新。アトリアの雰囲気ぜひ覗いてみてください!



Instagram [ID: @art_gallery_atlia]



X (旧 Twitter) [ID: @artatlia]



Facebook

川口市立アートギャラリー・アトリア

〒332-0033 埼玉県川口市並木元町1-76
[開館時間] 10:00-18:00 (最終入館 17:30)
[休館日] 毎週月曜日(祝日の場合は翌平日)、年末年始、施設整備期間
[TEL] 048-253-0222 [FAX] 048-240-0525
[Mail] info@atlia.jp



駐車場はありませんので公共交通機関をご利用ください。
JR川口駅(京浜東北線)東口より徒歩約8分

https://atlia.jp/



編集後記

お出かけが楽しい季節になりました。今年ぜひ、「芸術の秋」を探しにアトリアへ遊びに来てください!

ATLIA NEWS for TEENS
編集: 竹内春香、武井智子、溝口亜紗、宮澤和気
デザイン: MO BETTER DESIGN
編集協力: 山元大輔
発行日: 2024年10月1日

ATLIA NEWS for TEENS

vol.5 (2024.10)

こんにちは。木々が色づきはじめ、芸術の秋がやってきましたね。

アトリアでは、10月に展覧会「旧田中家住宅-川口の商家の贅と茶の文化-」を開催します。末広にある国指定重要文化財 旧田中家住宅の建築様式や田中家ゆかりの品などを、地域の歴史とともに紹介します。

今回のアーティストインタビューは、川口で三代続く蒔絵師の豊平江都さんです。豊平さんの作品は、旧田中家住宅展で展示します。

空が高く心地の良いこの季節、ぜひ散歩をかねてお立ち寄りください。歴史と魅力が詰まった旧田中家住宅にも、ぜひ足を運んでみてくださいね。

年明けの「アートな年賀状展」では、市民のみなさまの年賀状を展示します。ぜひ作品を応募してくださいね!



上: 旧田中家住宅洋館1階 応接間
中: 初代 松下喜山「旧い館」(1953年)
下: 豊平江都「蒔絵香合」(2023年)



展覧会 旧田中家住宅 The Former Tanaka Family Residence 川口の商家の贅と茶の文化



EVENT アトリアの今後のイベント

- 展覧会
- ワークショップ

旧田中家住宅 -川口の商家の贅と茶の文化-

日時:10月12日(土)~11月4日(月祝)

川口市初の重要文化財である旧田中家住宅に関する展示です。旧田中家住宅に関わりある品の他、茶道具などを展示予定です。

あなるぐ×AR体験! 妄想から生まれたイロカタチとあそぼう!

日時:11月9日(土) ①10:30-12:00 ②14:00-15:30

仮想空間で遊ぶオブジェに絵の具で色を塗り、スマートフォンでAR(拡張現実)を出現させ撮影を楽しむワークショップです。

第52回川口市美術展

前期:11月15日(金)~11月21日(木)

後期:11月24日(日)~11月30日(土)

第57回 川口市特別支援学級合同作品展

日時:12月4日(水)~12月8日(日)

第18回 アートな年賀状展

日時:2025年1月9日(木)~1月19日(日)

市民の皆さまから募集した年賀状を展示します。会期中には、お正月にちなんだワークショップも予定しています。

中学生のART CLUB作品展

日時:2025年1月25日(土)~2月2日(日)

川口市小・中・高校書きぞめ展覧会

日時:2025年2月6日(木)~2月11日(火)

川口の図工美術まなび展

日時:2月15日(土)~2月24日(月祝)

※詳細はアトリア HP や広報かわぐちをご確認ください。予定は2024年9月末時点のものです。事情により変更する場合があります。

豊平江都

Etsu TOYOHIRA

豊平江都さんは、祖父の代から続く蒔絵師として活躍されています。蒔絵とは、日本の伝統美を象徴する漆工芸のひとつで、器などの地に漆を塗り重ね、漆が乾かないうちに細かな金や銀の粉を蒔きつける装飾技法です。その歴史は1200年以上といわれています。かつて蒔絵師は、蒔絵だけを行う分業の職人でしたが、豊平さんは、素地づくりやデザイン、漆塗り、蒔絵、仕上げといった全工程をほぼ1人でを行っています。アトリアでは、10月12日から始まる「旧田中家住宅展—川口の商家の贅と茶の文化」で、豊平さんの作品を展示します。蒔絵の魅力や、どんな想いで制作に取り組んでいるのか、豊平さんにお話を伺いました。

漆黒のつやめき、金の輝き

「菊蒔絵香合」(次ページ右上)は、黄色い菊の花の蒔絵が、器の黒地を覆うように施されています。1cmにも満たないわずかなスペースに、金粉の濃淡が細やかに表現されていることに驚きました。漆のつややかさと金色のきらめきが、小ぶりながら豪華さを感じさせてくれます。

豊平 香合(※)は茶道具のひとつで、この作品は、形体が露の一滴に似ているところから、秋の菊花とそれをつたう露のイメージに合わせて制作しました。花の中央部分には螺鈿技法といって鮑貝の薄い貝を漆で接着しています。

漆や蒔絵の器は、現代の私たちの暮らしの中では、なじみが薄くなっていますが、豊平さんはどんなところに魅力を感じていますか。



左から粉筒、漆刷毛

千二百年の 伝統を 受け継ぐ



豊平江都 乾漆螺鈿蒔絵飾箱「朝露」
2014年 川口市蔵

豊平 それは漆のつやですね。漆の木の樹液である漆を塗った器は何百年ともつことから、漆はどんな化学塗料よりも優れているといわれています。また、接着剤にもなり、金銀を蒔いて定着するのも漆のおかげです。この香合を作るのに、だいたい50の工程があり、完成するまでに1年ほどかかりました。漆塗りの工程ひとつとっても、塗ったり研いだりを何回も繰り返します。材料は、すべて自然の物を使っており、うまく仕上がらないことも多く、真っ黒になりながら制作していますが、完成した時の、漆のうるわしくうるおいのあるつやが一番の魅力だと私は思います。

制作に使う道具も、伝統的で特殊な物なのですか。

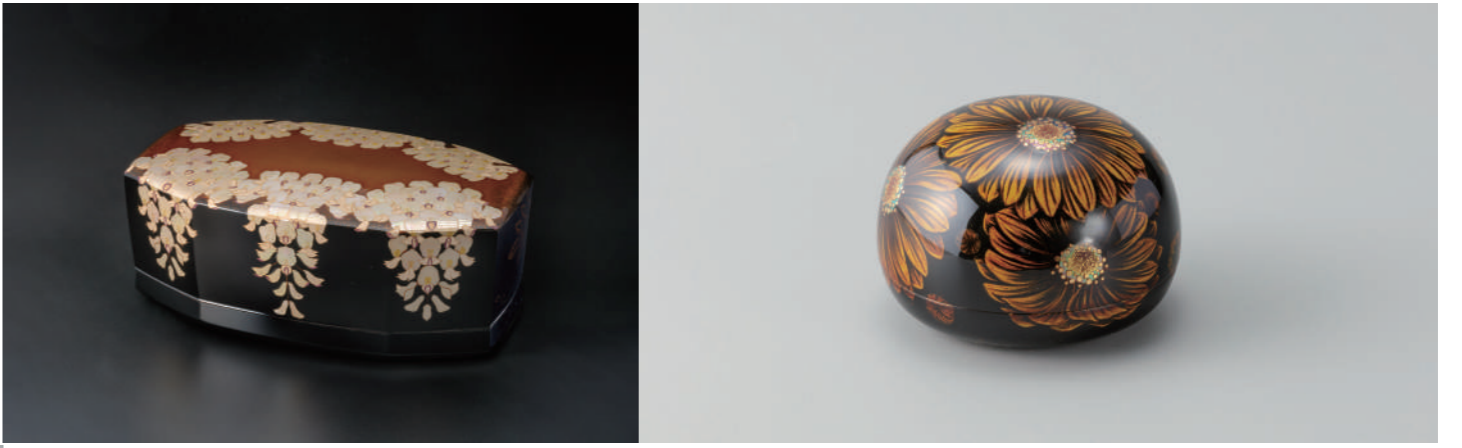
豊平 そうです。例えば、漆を塗る時に使う漆刷毛は、女性の長い黒髪を漆で固め、ヒノキ板に挟んで作られた道具です。これを鉛筆のように切り出しながら使っていきます。

蒔絵では、粉筒という道具を使います。直径10mmほどの細い竹筒の切り口に布を貼った物で、中に金粉を入れて、指先の微妙な感覚だけをたよりに、とんとんとと指をはじくようにして蒔いていきます。粉筒のほかにも、特殊な道具がたくさんあります。

蒔絵師としての修行も行った子ども時代

蒔絵への興味は小さい頃からあったのでしょうか。

豊平 そうですね。祖父や父、2人のおじが蒔絵の仕事をする工房が自宅にありました。蒔絵師は、1日中正座をして作業をしますが、夏休みなど、ことあるごとに、私も正座をして父の隣に



豊平江都 乾漆藤花螺鈿絵飾箱「薫る」 2008年

豊平江都 菊蒔絵香合 2023年

座っていました。2、3時間、正座できることが、蒔絵師になるための第一条件だと言われていましたので。また、蒔絵材料の下仕事をしたり、細かな金をきれいに並べたりもしました。夕食の時間には、晩酌をする父のひざの上で、箸を粉筒に見立てて、粉筒の持ち方やあしらい方といった、金粉を蒔く手先の練習もしていましたね。

漆は手をかければかけるほど、美しく輝く

では、小学生の時から、将来は蒔絵師になろうと決めていたのですか。

豊平 そういうわけではなかったと思います。今考えると、遊びの一環として父たちの真似ごとをしていた感じでした。中学生になると部活動で忙しかったですし、工芸科のある高校では、他の工芸分野にも触れ、自然素材にとっても興味をおぼえました。そして、幅広く工芸の勉強をしたいと思い、4年間の浪人の末、東京芸術大学へ進学しました。

当時の東京芸術大学の工芸科は3年生に上がる際に、彫金、鍛金、鍍金、陶芸、染織、漆芸という6つの専門分野の中から1つを専攻として選ぶのですが、どれも楽しくて、何を専攻しようか迷うほどでした。

それでも、結局は漆芸を専攻されたわけですね。

豊平 漆芸科の授業で、木の器に拭き漆(※)の制作課題があった時の話です。課題提出の締め切り前に、私の作品の漆が乾かないということが起きました。漆は、風呂あるいは室と呼ばれる装置に入れて温度や湿度を管理しながら乾かすのですが、その管理がうまくいかなかったのか、漆の乾きが不十分であったのに、次々と工程を重ねていってしまったんです。自然素材を相手にすることの難しさを感じたのは、その時が初めてでした。

担当教授だった増村紀一郎(※)先生に見せたところ、先生は布で、丁寧に漆を拭き取っては磨く作業を繰り返してくれました。すると、べたべただった漆がどんどんきれいになり、やがて、つやつやに輝き始めたのです。その時、先生がおっしゃった「漆っていうのは手間暇をかければかけるほど、美しく輝くんだよ」という言葉を聞いた瞬間、幼い頃から見てきた、仕事をする祖父や父た

ちの背中が走馬灯のように浮かんで来て、自分もこの難しい漆を学び、挑戦したいと自然に思えました。

経験を次の世代へ

それから、大学院卒業まで4年間、漆芸を専門に学び、現在では日本工芸会の正会員で、日本伝統工芸展などでも作品を出品されています。

豊平 ささまざまな自然素材と対話をしながら制作することは楽しいことです。ただ、同じやり方をしても同じような仕上がりにならないことがほとんどです。しかし、失敗は財産だと思っているので、次はこうしようとチャレンジ精神で次に向かうことができました。また、経験して学んだことは、身体が覚えてくれますしね。

日本の工芸には素材美を活かした物がたくさんあります。作品を通して、これからも日本の文化の魅力を伝えていきたい。そして、これまで日本の伝統工芸の美に携わらせていただいた経験を次世代の方々にお伝えしたいと考えています。

アトリアでの展覧会も楽しみにしています。ありがとうございました。

※香合：お香を入れる、蓋がついた小さな容器。茶道具や仏具の一種。
※拭き漆：漆芸技法のひとつ。生漆を塗り、その漆を布で拭き取る工程を繰り返すことで、木目を活かしたり、つやをあげたりすることができ、仕上げに使われる。
※増村紀一郎：漆芸家。2008年に人間国宝(重要無形文化財)に認定。主な作品に「乾漆銀地水指『瀑』」などがある。

PROFILE

- 1965年 埼玉県川口市に蒔絵師豊平翠香の長女として生まれる(本名・江都子)
- 1992年 東京芸術大学美術学部工芸科を卒業する
- 1994年 同大学大学院漆芸専攻を修了する
- 2000年 第47回日本伝統工芸展に初入選する
以後、日本伝統工芸展覧会に出品を重ねる
- 2002年 文化庁新進芸術家国内研修を受ける
- 2007年 重要無形文化財厚貝螺鈿伝承者養成研修を受ける(～20年)
女子美術大学短期大学部非常勤講師となる(～24年)
- 2012年 「東京芸術大学創立125周年記念事業 漆芸“軌跡と未来”展」に出品する
本文化財漆協会 関連事業“漆芸に関する原材料と道具”調査に参加する(～現在)
- 2022年 川口市文化奨励賞を受賞する